大学基準５．学生の受け入れ

中期目標

【目標１】学生の受け入れ方針を明示し、教育目標や学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づいた人材育成の成果と比較・検証することで、これを適切に維持する。

【目標２】適切な定員を設定して学生を受け入れるとともに、過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の平均並びに、収容定員に対する在籍学生比率の平均を 1.00 とする。

（１）広報入試委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1] 当該学科に入学するにあたり、求める学生像及び修得しておくべき知識等を事前に明示する。 [1-2] それぞれの入試制度に基づいた選抜方法を明示するとともに、選考方法、出題内容、合否判定が適切かどうかを検証し、適正化を図る。 [1-3] それぞれの入試制度並びに成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当した入学生の学修成果について検証・評価する。 [1-4] 社会の状況に応じた機動的な広報活動および選抜を行う。	[1-1, 1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①各奨学金対象者調査 ②各奨学金対象者調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率 ⑦成績優秀者奨学金該当者等成績一覧

2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] アドミッションセンターにて、アドミッションポリシーの見直しをし、受験生や高校へ十分周知すると共に、全ての入試制度において、アドミッションポリシーを踏まえた入試評価を前提とする。	[1-1] 来年度の入試改革に向けて、大学全体のアドミッションポリシーについて見直しを図った。来年度のＨＰ、入試ガイド等で受験生や高校へ十分に周知を図る。	[1-1] 新たに策定されたアドミッションポリシーについて、来年度、ＨＰ、入試ガイド等で受験生や高校へ十分に周知を図る。
	[1-2] 募集定員、入試制度、選考方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示するほか、入学後の成績・学籍状況を調査し、それぞれの制度における選考方法と合否判定が適切か検証・評価する。特に、スカラシップ入試制度については、出願者および入学者の層を見つつ、合格レベルについても今後検証・評価を続ける。	[1-2] 募集定員、入試制度、選抜方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示すると共に、入学後の成績・学籍状況（入試種別ごと卒業率、就職率、中退率等）を調査し、それぞれの制度における判定が適切かどうか関係部署と連携し検証・評価した。一昨年度より導入したスカラシップ制度についても、引き続き得点率の妥当性等検証した。なお、成績優秀者奨学金制度（推薦入試）については、見直しを図った。	[1-2] 募集定員、入試制度、選抜方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示すると共に、入学後の成績・学籍状況（入試種別ごと卒業率、就職率、中退率等）を調査し、それぞれの制度における判定が適切かどうか関係部署と連携し検証・評価した。一昨年度より導入したスカラシップ制度の得点率の妥当性等引き続き検証する。なお、成績優秀者奨学金制度（推薦入試）については、見直しを図った。
	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生の学修状況・成果の把握を引き続き可視化し、担当部署および担当教員と共有する。また、上記スカラシップ特待生についても同様とする。	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生に対して、「奨学生状況経過報告書」を提出させ学修状況・成果の把握について、可視化し、担当部署および担当教員とで共有した。また、上記スカラシップ特待生についても同様とした。	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生に対して、「奨学生状況経過報告書」を提出させ学修状況・成果の把握について、可視化し、担当部署および担当教員とで共有する。また、上記スカラシップ特待生についても同様とする。

2020年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] アドミッションセンターにて、アドミッションポリシーの見直しをし、受験生や高校へ十分周知すると共に、全ての入試制度において、アドミッションポリシーを踏まえた入試評価を前提とする。		
	[1-2] 募集定員、入試制度、選考方法等について、入試ガイド、ＨＰ等に明示するほか、入学後の成績・学籍状況を調査し、それぞれの制度における選考方法と合否判定が適切か検証・評価する。特に、スカラシップ入試制度については、出願者および入学者の層を見つつ、合格得点率についても今後検証・評価を続ける。		
	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生の学修状況・成果の把握を引き続き可視化し、担当部署および担当教員と共有する。また、上記スカラシップ特待生についても同様とする。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）	達成度評価指標【指標２】
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適正化を検証する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の未充足に対する対策を検討する。 [2-3] 各学部の合否基準を明確にし、一定の学力・意欲・適応力のレベルを保ちつつ、偏差値を意識しながら、中期的に安定した定員充足が出来るような学生募集方法を検討し、その成果を検証する。	[2-1, 2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率 [2-3] ①合格最低点、得点率、手続者数一覧 ②年度別入学者の平均点一覧 ③年度別休退除籍者数一覧 ④各学科修学指導対象者一覧

2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 札幌学院大学中期計画で定めた、獲得目標である 710 名に向けて、アドミッションセンターにて、様々な入試広報活動を推進し、検証・評価する。	[2-1] 2015 年度から安定的な定員が確保出来るよう入試広報活動を推進してきた。特に今年度は新キャンパス展開を控え、さらなる本学知名度 UP に向けて広報を強化した。また、スカラシップ入試 3 年目という事で、こちら	[2-1] 昨年度の時点で、札幌学院大学中期計画で定めた 2020 年度獲得目標を突破しており、来年度は入試改革のため、現行の入試制度最後の年度となることから、今年度は定員充足をも視野に入れて進めてきた結果、952

		の周知も徹底し、進学雑誌にも偏差値等掲載され、さらなる周知となった。	名と昨年度より大幅に増加となった。定員充足率も 119.7%と上昇した。
	［2-2］ ①オープンキャンパスの参加者数の増加及び目的意識の高い参加者のリピート率をあげるための広報及び企画の充実を図る。 ②大学進学セミナーの参加者数の増加及び本学オープンキャンパスと併せて参加させるための広報及び企画の充実を図る。 ③大学案内、入試ガイド、支援力レポート、ＨＰなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携し、高校生に見てもらえ、そして本学を選ぶ決め手の一つとなるよう製作する。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加する。なお、他の業務（高校訪問等）と連携し、さらなる予算削減を心がける。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、東北地区における訪問を引き続き強化する。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等を紹介するため、引き続きサイトを充実させ、申込数の増加を図る。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を鑑み広告媒体を見直す。	［2-2］ ①オープンキャンパスの参加者数の増加及び目的意識の高い参加者のリピート率をあげるための広報及び企画の充実を図った。特に参加者の質の向上、保護者の獲得を重点的に実施。結果、合計人数としても大幅に増加。併せて保護者の参加者数も大幅に増えた（過去 10 年間で最多）。 ②大学進学セミナーの参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図り、結果保護者の参加が大幅に増えた。また、昨年度から試験的に実施した、室蘭、盛岡、秋田においては、参加者数としては多くないものの、その後の出願に確実に繋がった事を確認できる結果となった。 ③2021 年 4 月に開設の新キャンパスを前面に出し、さまざまな広報を展開した。結果、さらに札幌学院大学の知名度が上がったように思われる。また、同じく展開する新学部開設も相まって、今年度入試において、該当学科の出願につながった。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視するとともに、入試制度等煩雑化していることから、可能な限り広報入試課職員と広報入試委員が連携して参加した。回数としては多くはなかったが、職員学生募集プロジェクトメンバーにも協力要請をした。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を強化した。昨年同様沖縄地区出願者獲得へ向け、校内ガイダンス中心に参加した。沖縄地区開拓に向けては引き続き計画的に実施したい。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等のメニューを紹介するサイトも充実させ、申込数は昨年に引き続き上昇し、昨年比 1.3 倍となった。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を見ながら各業者の広報媒体を見直した。	［2-2］ ①オープンキャンパスの参加者数を増加させ、目的意識の高い参加者を募るための広報及び企画の充実を図ってきた。今後は 18 歳人口減少の煽りの中、参加人数だけではなく、参加者の質の向上、保護者の満足度を高めるよう、更なる企画等の充実を図りたい。 ②大学進学セミナーの参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図り、結果保護者の参加が大幅に増えた。また、昨年度から試験的に実施した、室蘭、盛岡、秋田においては、参加者数としては多くないものの、その後の出願に確実に繋がった事を確認できる結果となった。ついては、来年度も全 9 会場において、引き続き追求したい。 ③この間、2018 年度に開設した心理学部を前面に出し、さまざまな広報を展開した。現在は 2021 年 4 月に拠点展開する新キャンパスおよび同じく展開する新学部も相まって知名度も上がったように思われる。引き続き来年度開設に向けての広報をさらに強化する。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視するとともに、入試制度等煩雑化していることから、可能な限り広報入試課職員と広報入試委員が連携して参加した。回数としては多くはなかったが、職員学生募集プロジェクトメンバーにも協力要請をした。近年、予算が削減される中、業者主催の相談会等は増加傾向。参加に関してはさらなる吟味が必要となっている。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を強化した。昨年同様沖縄地区出願者獲得へ向け、校内ガイダンス中心に参加した。沖縄地区開拓に向けては引き続き計画的に実施したい。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等のメニューを紹介するサイトも充実させ、申込数は昨年に引き続き上昇し、昨年比 1.3 倍となった。幅広い周知や申込数の増も重要だが、高大連携の本来の意味も考えつつ今後も進めていきたい。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を検証し、年度途中であっても広告媒体の見直しを図りつつ進めている。
	［2-3］ ①2021 年度以降の大学入学者選抜試験について、学力の３要素を評価すべく、さらなる詳細を詰め、早い段階で高校生、高校教員、保護者へ周知する。また、新さっぽろキャンパス展開も併せて周知する。 ②インターネット出願の利便性、経済性について引き続き検討すると共に、今後、全入試制度への拡大についても引き続き検討する。	［2-3］ ①2021 年度以降の大学入学者選抜試験について、高大接続改革対策検討委員会から、アドミッションセンター会議に引き継がれ、さらなる詳細を確定し、ＨＰ等にて周知した。また、併せて新さっぽろキャンパス展開も周知した。 ②インターネット出願の利便性、経済性について引き続き検討し、来年度からはインターネット出願に全面移行するため、予算要求も行い認められた。また、今年度は、北海学園大学、北星学園大学において、インターネット出願を導入した煽りか、本学のインターネット出願率も過去最高となった。この状況からも、来年度全入試において、インターネット出願を導入することに大きなトラブルはないと考えられる。	［2-3］ ①2021 年度以降の大学入学者選抜試験について、高大接続改革対策検討委員会から、アドミッションセンター会議に引き継がれ、さらなる詳細を確定し、ＨＰ等にて周知した。また、併せて新さっぽろキャンパス展開も周知を行った。 ②インターネット出願の利便性、経済性について引き続き検討し、来年度からはインターネット出願に全面移行するため、予算要求も行い認められている。また、今年度は、北海学園大学、北星学園大学において、インターネット出願を導入した煽りか、本学のインターネット出願率も過去最高となった。この状況からも、来年度全入試において、インターネット出願を導入することに大きなトラブルはないと考えられるが、初年度という事もあり、検証しつつ進めたい。
2020 年度	**年次計画内容**		
	［2-1］　札幌学院大学中期計画で定めた後、入学者の獲得目標の見直しがされ、新たな獲得目標である 740 名に向けて、安定的に確保できるようアドミッションセンターにて、様々な入試広報活動を推進し、検証・評価する。		

	[2-2] ①オープンキャンパスの参加者数の増加及び目的意識の高い参加者のリピート率をあげるための広報及び企画の充実を図る。 ②大学進学セミナーの参加者数の増加及び本学オープンキャンパスと併せて参加させるための広報及び企画の充実を図る。 ③大学案内、入試ガイド、支援力レポート、ＨＰなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携し、高校生に見てもらえ、そして本学を選ぶ決め手の一つとなるよう製作する。 ④直接接触型およびWeb等による間接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加する。なお、他の業務（高校訪問等）と連携し、さらなる予算削減を心がける。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問（直接・間接）の連携を図り、北海道、東北地区における訪問を引き続き強化する。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等も紹介し、引き続き内容を充実させ、本学の学びの分野の周知そして申込数の増加を図る。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を鑑み広告媒体を見直す。
	[2-3] ①2021年度以降の大学入学者選抜試験について、学力の３要素評価も含め、しっかりと高校生、高校教員、保護者へ周知する。また、新さっぽろキャンパス展開も併せて周知する。 ②今年度より全入試制度において、インターネット出願導入に伴い、さらなる周知を行う。今後は入学手続きにおいてもシステム上実施可能かを探る。

（２）アクセシビリティ推進委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-2] ①GPA ②進路決定状況（業種別等を含む） ③資格等取得状況 ④学位授与率・４年間卒業率
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」をホームページ上で示すとともに、その適正な運用に努める。	[1-1]　基本方針については、本学ホームページ上で公開している。	[1-1] 資料：本学ホームページ「障がい学生支援」
	[1-2]　障がいのある学生の学業成績（GPA、資格取得状況など）の情報を把握し、必要に応じて関係各所との協力により支援体制を確保する。	[1-2] 成績確定後（前期・後期の２回）に、アクセシビリティ推進委員会の会議において、障がいのある学生の学業成績（GPA、単位修得状況）の情報を確認し、関係各所と状況を共有するとともに、必要な支援を行った。 また、１年生とは前期・後期に振り返り面談を実施し、改善等が必要な事柄について確認を行った。	[1-2] ①GPA　②進路決定状況 資料：2019 年度本学に在籍する障がい学生一覧（第 11 回アクセシビリティ推進委員会　回収資料 3） 2019 年度 GPA3.0 以上 20 名・卒業生 10 名・就職 7 名（内障害枠 4 名）・就労支援 1 名・未定 2 名
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] (1)「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」をホームページ上で示すとともに、その適正な運用に努める。 (2)障がい学生の受け入れと支援に関するガイドラインを作成するとともに、ホームページ等で公開する。		
	[1-2]　障がいのある学生の学業成績（GPA、資格取得状況など）の情報を把握し、必要に応じて関係各所との協力により支援体制を確保する。		

（３）経営学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を入試要項、ホームページなどで明示する。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。その際、単位取得、GPA、進路決定状況など具体的な数値よって検証する。			[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　新学部新経営学科の求める学生像および修得しておくべき知識等の内容・水準を検討するとともに、それを明示する作業に進む。	全学的にアドミッション・ポリシーの再検討が行なわれ、新経営学科の新たなポリシーが確定された。	全学的に策定された新ポリシーをもとに、入試要項･各種入試案内等において明示する変更作業を行なった。
	[1-2]　受け入れた障がいのある学生について､適切な対応がとられているか検証する。	具体的な検証作業は行うことができなかった。	教務委員長との情報交換で密接な関係は保ったので､適切な対応がとられていることは確認している。
	[1-3]　引き続き、学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長について検証する。	適応障がいを抱える学生について、個別指導などゼミ履修の配慮、対応を行なった。学習支援室にも相談した。	当初は効果を持ったものの､特別な配慮を必要とする学生ではないことが分かり、後半、授業に出席しなくなった。

2020年度	年次計画内容
	[1-1]2019年度に策定された新ポリシーの受験者への明示を継続し、ポリシーに従った受け入れ活動を展開する。
	[1-2]受け入れた障がいのある学生について、適切な対応がとられているか引き続き検証する。
	[1-3]受け入れた学生の成長について、新たな入試制度別に教務委員会と連携して検証する。

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関して、会計ファイナンス学科の定員を 2014 年度から削減したが、さらに経営学科も含め大学執行部、理事会などと連携をとりながら対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　社会科学系学部再編に伴い、収容定員に対する在籍学生比率の適切性について一定の結論を出す。経営学科一学科体制とし、150名定員の適切性について検討する。(学部定員20名減)	新学部設置準備委員会において検討され、150名定員の新学科として再編計画が確定された。	文部科学省により、新経営経済学部の届出申請が認められ、申請手続きに入った。従って、150名定員の新学科として、その適切性が認められた。
	[2-2]　届け出申請が通った後は、定員充足を図るための新たな広報入試活動の準備に入る。	新学部新学科設置構想に基づき、広報入試活動の準備が進められている。	入試要項の変更、各種入試案内の変更、現段階ではリフレクション入試の新制度を策定した。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1]収容定員の1.6倍になった入学者に対し、適切な初年次教育が展開されることに集中する。		
	[2-2]新経営学科150名定員の確保(収容定員1.0倍～1.2倍の範囲内)に向けて努力する。		

（４）経済学部

【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　求める学生像および、経済学部の教育内容を明示する。 [1-2]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を検証する。 [1-3]　ＡＯ入試や推薦入学入試制度の検証を継続し、入試手段別に入学者学生の現況を把握する。 [1-4]　指定高校などの高大連携を図り、初年次学生の基礎力の担保を推進する。			[1-1]①入試要項、ホームページでの公開 [1-2]①修学ポートフォリオ提出状況 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率 [1-4]①高校巡回実施状況
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　様々な教育内容を紹介するため、経済学部ホームページに新着記事を昨年度並みに掲載する。	経済学部の教育内容，ゼミナール活動，様々なイベントなど機会あるごとに，学部のホームページに掲載する。	経済学部の教育内容，ゼミナール活動，様々なイベントをホームページに掲載した。それはかなりの数にのぼった。
	[1-2] 1)修学ポートフォリオの項目を検討するとともに、学生自身で成長を確認させる。 2)ポートフォリオを用いた学生一人ひとりの修学指導の方法を検討する。	1)修学ポートフォリオを、1年次前期・後期の学期、2年次に加え、3年時にも実施した。来年度に向けて、学位授与方針への到達を意識させる設問を加えたものを準備した。 2)担当教員に指導を委ねているのが現状で、ポートフォリオを用いた修学指導の方法については検討に至っていない。	学生の成長を支援する施策は実施しているが、受け入れた学生一人ひとりの成長を検証する方法の確立には至っていない。
	[1-3]　入試手段別の成績および学籍異動を分析し、入学者の今後の動向の注意点を探る。	入試手段別の成績および学籍移動の基礎資料は作成しているが、分析には至っていない。	入試手段別に学生の状況をしっかり捉えるところまでは至っていない。
	[1-4] 1)入学前学習の有効な在り方について検討する。 2)高校巡回において在学生の状況を一人ひとり説明できるよう、昨年度以上に情報を共有する。	1)検討できなかった。 2)学生の状況に関する情報共有は，10分FDも含め，実施されている。	1)次年度の検討課題とする。
2020年度	年次計画内容		
	[1-1]　様々な学部の取り組み，あるいは教育内容を紹介するため、経済学部ホームページに新着記事を昨年以上に増やす。		
	[1-2] 1)修学ポートフォリオの項目を検討するとともに、学生自身で成長を確認させる。 2)ポートフォリオを用いた学生一人ひとりの修学指導の方法を検討する。		
	[1-3]　入試手段別の成績および学籍異動を分析し、入学者の今後の動向の注意点を探る。		
	[1-4] 1)入学前学習の有効な在り方について検討する。 2)高校巡回において在学生の状況を一人ひとり説明できるよう、昨年度以上に情報を共有する。		

【計画２】（目標２に対応する計画）	達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する検討を行う。	[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率

５．学生の受入れ

			②収容定員充足率
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　定員の確保に努力する。過去 5 年間の入試手段別の定員充足率を元に、重点化すべき入試対策を検討する。	定員確保のために高校巡廻，オープンキャンパスの活用，HP 等を使った宣伝を有効に行う。また，出前授業について，全教員が参加とする計画を立てた。	高校巡廻は，全教員が担う旨，教授会で意思統一し，担当者ごと担当の高校を決めた。ただし，新学部設置の準備のため，一部の教員の取組に終わってしまった。また，出前授業については，全教員参加には至らなかったが，昨年より人数が増えた。
	[2-2]　入試制度の検討を昨年度に続き行う。	入試区分毎の定員設定の現状について検討すること。	入試区分毎の定員設定の見直しができなった。検討するデータ分析が間に合わなかった。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1]　2020 年 5 月 1 日現在，経済学部の収容定員対在籍学生数は，１.0 を超えた。入学定員充足率 100%以上も 2 年間にわたって実現した。引き続き，今年度も定員の確保に努力する。過去の入試手段別の定員充足率を元に、重点化すべき入試対策を，あらためて検討する。		

（５）人文学部人間科学科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　アクセシビリティ推進委員会との連携のもとに障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。	[1-1,1-2 共通] 入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学修行動調査 ②学生満足度調査の活用 ③卒業生満足度調査の活用 ④入学年度別 GPA 分布・推移 ⑤進路決定状況（業種別等を含む） ⑥資格等取得状況 ⑦入学年度別学位授与率

2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 2020 年度より学科新カリキュラムがスタートするため、もとめる学生像および入学するにあたり修得しておくべき知識等については 2018 年度中に内容を改定した。その新たなアドミッションポリシーを入試ガイド、AO ガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知する。	[1-1]新たなアドミッションポリシーを入試ガイド、AO ガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知した。また、新たなアドミッションポリシーを記載した学科新カリキュラムに関する入試広報チラシ 5000 枚を道内および東北地方の高等学校へ郵送した。	[1-1]進学相談会は 5 回、校内ガイダンスおよび地方で実施された大学進学セミナーに入試委員および学科教員で対応した。2020 年度入試にかかる 5 回のオープンキャンパスにおける対応件数（希望学科として本学科を選んだ件数）は 237 件であった。また、昨年度から再開した高校訪問について 25 校の訪問を行った。
	[1-2] 学科としての障がいのある学生の受け入れ方針とその示し方は、「札幌学院大学　障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」及びアクセシビリティ推進委員会によるホームページ、パンフレット等にしたがって行う。	[1-2]「札幌学院大学　障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」及びアクセシビリティ推進委員会によるホームページ、パンフレット等にしたがって実施した。	[1-2] アクセシビリティ推進委員会による大学としての受け入れ方針をホームページで公開している。 【指標　本学ＨＰ掲載内容】
	[1-3]昨年度に引き続いて、GPA での成績分布の学年別差異や特徴について検討を進めていく。	[1-3] 今年度は全学の GPA の分布をグラフ化し履修要項にも掲載した。	【指標　履修要項】
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 2020 年度より学科新カリキュラムがスタートしたため、新たなアドミッションポリシーを入試ガイド、AO ガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知する。		
	[1-2] 学科としての障がいのある学生の受け入れ方針とその示し方は、「札幌学院大学　障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」及びアクセシビリティ推進委員会によるホームページ、パンフレット等にしたがって行う。		
	[1-3] 昨年度に引き続いて、GPA での成績分布の学年別差異や特徴について検討を進めていく。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）	達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。	[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率

2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の動向を把握する。	[2-1] 収容定員 520 人（130 人×4 学年）に対して、2016 年度から 2019 年度までの在籍学生比率を把握した。	[2-1] 2015 年度から 2019 年度までの収容定員充足率（②）の推移は、0.76、0.65、0.58、0.60、0.61。
	[2-2] 定員確保を目標とする。入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナーを通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。また、在学生とも連携しオープンキャンパスにおけるミニ講義などの学科企画等を通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。加えてホームページ等でも学科教育内容を積極的に発信する。	[2-2] 定員確保を目標として、広報・入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナーを通じて、学科カリキュラムの魅力を伝える。また、オープンキャンパスにおけるミニ講義等を通じて、学科カリキュラムの魅力を積極的に伝えた。また 2020 年度より学科新カリキュラムがスタートするのにともない、2020 年度受験生向けに新カリキュラムによる学びの概要についてオープンキャンパスで説明を行った。その他、	2015 年度から 2019 年度までの入学定員充足率（①）の推移は、0.56、0.52、0.68、0.61、0.61。 なお、左記の定員確保の取り組みの結果、2020 年度入学生の入学手続き者は 3 月末日で 127 名であり、入学予定者による 2020 年度定員充足率は「0.98」となっている（確定は 2020

		学科ホームページの教育内容や資格課程の紹介ページを大幅に修正し高校生向けにビジュアル化したものに改訂、新規指定校拡大、介護福祉士国家資格取得者向け奨学金制度の創設、新カリキュラム宣伝チラシ 5000 枚の配布（道内、東北合わせて 190 校）。留学生向け大学パンフレットの記事内容の大幅な見直し、十勝毎日新聞でのカリキュラム紹介記事掲載を行った。	年 5 月 1 日）。2019 年度の取り組みにより入学定員の極めて大幅な改善に成功した。
2020 年度	年次計画内容		
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の動向を把握する。		
	[2-2] 定員確保を目標とする。入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナーを通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。また、在学生とも連携しオープンキャンパスにおけるミニ講義などの学科企画等を通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。加えてホームページ等でも学科教育内容を積極的に発信する。		

（６）人文学部英語英米文学科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1] 求める学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2] 学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1]入試要項、ホームページでの公開 [1-2] ①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況（業種別等を含む） ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・４年間卒業率
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] アドミッション･ポリシーの周知をさらに徹底する。具体的には、オープンキャンパス・出張講義・進学相談会・高校訪問などの場を活用する。	5 回実施されるオープンキャンパスの学科説明会や個別相談会、学外での進学相談会や校内ガイダンスにて、アドミッション・ポリシーの周知を徹底した。英語関連の出張講義やミニ講義でも、部分的にアドミッション・ポリシーに言及するなどの工夫も行なった。	入試要項、ホームページでの公開を行なった。 【指標「大学ウェブサイト」】
	[1-2] 4 年生に関して、その成長を GPA の推移や資格取得状況などのデータから可視化するとともに、学生の成長を支援する仕組みについての検討を継続して行う。	2014～2016 年度入学生の GPA が、4 年間でどのように推移しているか比較した。GPA 推移は、2014 年度入学生は 2.48、2.46、2.71、2.89 であり、2015 年度入学生は 2.09、2.20、2.36、2.36 であり、2916 年度入学生は 2.63、2.58、2.80、2.99 であった。このことから英語英米文学科の傾向として、2 年次で若干下がること、また 3 年次 4 年次では持ち直して伸びることが分かった。今後の方策として、3 年次 4 年次の GPA 値上昇は維持するとともに、2 年次の落ち込みを改善する努力が学生の成長に繋がるように思われる。	次年度も 4 年生に関して、その成長と GPA の推移や資格取得状況などのデータに基づき、学生の成長を支援するための仕組みについて検証を行う。 【指標「2017 年度人文学部入学年度別 GPA 推移」 「2018 年度人文学部入学年度別 GPA 推移」「2019 年度人文学部入学年度別 GPA 推移」】
2020 年度	年次計画内容		
	[1-1] アドミッション・ポリシーの周知をさらに徹底する。具体的には、オープンキャンパス・出張講義・進学相談会・高校訪問などの場を活用する。		
	[1-2] 4 年生に関して、その成長を GPA の推移や資格取得状況などのデータから可視化するとともに、学生の成長を支援する仕組みについての検討を継続して行う。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。 [2-3] 魅力的な対外広報を行なう。			[2-1] ② 入学定員充足率 ① 収容定員充足率 [2-2] オープンキャンパス・大学相談会参加状況 [2-3] ホームページ・ブログ・入試課で行なうアンケート
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 過去 5 年間（2015 年度から 2019 年度入試）の収容定員に対する在学生比率を算出する。	在学生比率は近年回復傾向にあるが、さらに 2019 年度入試での入学者が 59 名と定員を超えたため、4 学年全体の収容定員に対する在学生比率も引き続き 1.0 を上回った。具体的には、在学生比率は昨年度の 1.01（4/20 時点）から 1.07（4/20 時点）に上昇した。	算出は行なった。次年度も継続するとともに、定員充足率の上昇・維持に向け、より魅力的な広報の策を練る必要がある。 【指標②】 【指標「2018 年度第 2 回英語英米文学科会議資料 4」】 【指標「2019 年度第 2 回英語英米文学科会議資料 3」】
	[2-2] 過去 5 年間を見る限り、本学科が定員を超えたのは 2018 年度と 2019 年度であり、定員未充足の状態から改善が見られる。2020 年度入試でも定員を確保すべく、高校訪問等で高校教員に、	進路指導部訪問だけでなく、本学科の OB・OG 教員や知人教員を訪問し、高校教員へのアピールに努めた。オープンキャンパスでは学科のアドミッション・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを説明し、かつ、高校生にも理解できる難易度	進学相談会・校内ガイダンスで英語英米文学科への相談者数は、2018 年度は 233 人（全 237 回）に対し、2019 年度は 149 人（全 253 回）とコロナショックもあり減少した。また、全 5 回開催（前年度 3 月から今年度 12 月まで）のオープンキャンパスの来場者で本学科に興味を示した合計人数

	オープンキャンパスや進学相談会等で高校生や保護者に、本学科の魅力や雰囲気の良さをアピールする。	で本学科の学びを体験してもらうコンテンツを用意した。進学相談会や校内ガイダンス等も可能な限り入試委員が参加し、高校生へのアピールに努めた。	は、2018 年度は 136 名に対し、2019 年度は 124 名とやや減少した。新学部開設、新キャンパス展開、スカラシップ特待生制度などの明るい話題の効果が継続しているのか、引き続き高校生や保護者の反応はよかった。 【指標「2018 年度進学相談会・校内ガイダンス集計表」】 【指標「2019 年度進学相談会・校内ガイダンス集計表」】 【指標「2019 年度オープンキャンパス参加者数集計表」】
	[2-3]　本学科をアピールする方策として、大学ホームページによる発信を継続して行う。	大学ホームページがリニューアルされて以降、学科独自の新着情報は減っているものの、全学的に統一のとれたスタイルで情報発信ができている。また、ゼミ紹介と教員紹介のページについては、学科の全教員が年度末に確認修正を行った。	大学ホームページにおける情報発信方法を検証することができた。次年度も同様の検証を継続する。 【指標「大学ホームページ」「英語英米文学科お知らせのページ】
2020 年度	年次計画内容		
	[2-1]　過去 5 年間（2016 年度から 2020 年度入試）の収容定員に対する在学生比率を算出する。		
	[2-2]　過去 5 年間を見る限り、ここ 3 年間は安定して定員を超えており、定員未充足の状態からかなり改善が見られる。2021 年度入試でも定員を確保すべく、高校訪問等で高校教員に、オープンキャンパスや進学相談会等で高校生や保護者に、本学科の魅力や雰囲気の良さをアピールする。		
	[2-3]　本学科をアピールする方策として、大学ホームページによる発信を継続して行う。		

（７）人文学部こども発達学科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1]　こども発達学科がもとめる学生像、当該課程に入学するにあたり修得しておくべき知識等について、その内容・水準等を明示する。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す [1-3]　修学において支援を要する学生への措置を適切に行う。 [1-4]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長過程を、当該学生の学修成果を基に検証・共有化する。	[1-1、1-2、1-3 共通] ①入試要項、入試関連の広報媒体、ホームページ ②高校訪問・OP・進学相談会等での実績 ③入学前学習 [1-4] ①学生生活満足度調査 ②卒業予定者への調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤教員・保育士採用等の採用状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率 ⑥「はぐくみ」の利用

2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] こども発達学科がもとめる学生像や教育目標など学科のアドミッションポリシーを明示・周知し、入学後卒業までに必要な教育の内容と水準を、各種媒体を通して受験生に熟知できるようにする。入学予定者には入学前学習を適宜課することによって学習意欲を維持できるようにする。	「大学案内」「入試ガイド」「高大・連携プログラム」などの各種媒体を通して学科の受け入れ方針および教育目標などを広く周知することに努めた。また事前に習得すべき知識の内容も広報し、特に修学に支援を要する学生の受け入れ対策について学科会議で議論した。受け入れた学生については、学科 FD や学科会議などで修学上の問題点や改善点を議論して共有し、対応することができた。	対処を 3/3 実施。検証を 1/2 を実施。達成 1/1 を実施。 【指標「計画表」D5-1:入学生への内容・水準等を明示】 【指標「大学案内」】 【指標「入試ガイド」】 【指標②】 【指標「推薦,ＡＯ入学者入学前学習指導」】
	[1-2] 障害のある学生の受け入れに際しては、担任教員やアクセシビリティ推進委員会が必要な情報を共有し学科会議でも随時報告しながら修学に専念できるよう環境を整える。	障がいのある新入生の有無や詳細を把握し、アクセシビリティ推進委員会と学科関係者が連携しながら修学上必要な配慮や要望等について確認し、それらを学科会議で報告し、学科全教職員で共有する体制をとった。当年度は該当する学生はいなかったので具体的対応は実施しなかったが、この支援体制を維持した。	対処を 3/3 実施。検証を 2/2 を実施。達成 1/1 を実施。 指標「計画表」D5-1:障がいのある学生の受け入れ方針】 【指標「入学案内」※現物提出】 【指標②高校訪問･OP･進学相談会での実績】 【指標③入学前学習の効果の評価】 【根拠資料「誰でもできる情報保障のコツ～一歩進んだサポートをするために」】 【根拠資料「聴覚障がいのある受験生のためのガイドブック」】 【根拠資料「映像教材への字幕挿入サービスのご案内」】
	[1-3] 修学において支援を要する学生に対しては、担任教員およびアクセシビリティ推進委員会、関係部署と連携しながら対処する。	修学に困難をかかえる学生に対して、担任教員、各履修科目の担当教員が支援すると共に、担任教員による保護者と面談を実施し、アクセシビリティ推進委員会、学生相談室等の関係部署と連携いしながら対処した。また、次年度の支援を必要とする学生の支援体制を、当該学生とアクセシビリティ推進委員・	対処を 2/3 実施。検証を 1/2 を実施。達成 1/1 を実施。 指標「計画表」D5-1:支援を要する学生への措置】 【指標「入学案内」※現物提出】 【指標②高校訪問･OP･進学相談会での実績】 【指標③入学前学習の効果の評価】

		担当職員・担任教員とで打ち合わせする機会を持った。	【指標　「テイク支援実績」】 【根拠資料「難聴学生Ｔさんに対する授業配慮についてのお願い」】（前期、後期） 【根拠資料　場面緘黙学生Ｉさんに対する授業配慮についてのお願い】
	[1-4] 学科内の全学生について修学状況を把握できるように、毎月の学科会議で情報交換を行う。修学状況や進路希望については適宜調査を実施し、成長過程や問題点を把握できるようにする。何らかの支援や注意を必要とする学生に関しては「はぐくみ」を活用して情報を共有し、適宜指導や支援を行う。	毎月の学科会議において１年生から４年生までの修学状況を報告し合い、面談などを通して進路状況を確認しながらこれらの情報を学科教員が共有した。各履修科目で欠席の目立つ学生を注視し、複数科目の状況を照らし合わせて早期に指導・支援の必要な学生を発見するよう努めた。はぐくみ」も積極的に活用し、会議日に限らず恒常的に学科教職員の情報共有を行い、個々の指導や支援を行った。	対処を 3/3 実施。検証を 2/2 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D5-1:学生の成長過程と学修成果より検証・共有化】 【指標③】 【指標②進路決定状況】 【指標「卒業率・進級率推移表」】 【指標「コミュニケーション記録登録件数」】 【指標「こ発在学生の進路希望調査」】
2020年度	年次計画内容		
	[1-1]　こども発達学科がもとめる学生像、教育目標、学位授与方針などを明示し、入学後の修学意欲や態度に結び付くよう指導する。		
	[1-2]　多様な個性を持つ学生の受け入れに際し基礎ゼミや担任教員の適切な指導とともにアクセシビリティ推進委員会との連携しながら修学環境を整えるよう努める。		
	[1-3]　修学上の悩みを抱えて学生や支援を要する学生に対しては、学科内で情報を交換しながら修学支援について検討する。		
	[1-4]　新型肺炎の進展状況における学生の修学状況や環境の把握に努め、その情報を共有するとともに、学生の進路等についての情報の把握にも努めて、適切な指導を行う。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証し、再編方針を決定する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。 [2-3]　検証した再編方針にもとづき、募集人員の適切性を検証し、確保しうる再編を検討する。			[2-1、2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　収容定員と在籍学生比率の適切性における課題を整理して、今後の改組に効果的に活用できるようにする。	引き続き、前年度までの収容定員と在籍学生比率の適切性の検証に基づき、今後のさらなる改組をにらんだ議論に備えた。	対処を 2/2 実施。検証を 1/1 を実施。達成 1/1 を実施。 【指標「計画表」D5-2:収容定員と在籍学生比率の適切性の検証】
	[2-2]　入学定員を継続して確保する見通しをたて、充足のために効果的な取り組みに注力する。	２年連続の入学定員確保を目指し、指定校推薦及び一般・センター入試の志願者増をねらった高校訪問及び合同説明会の参加を効果的に展開することを試みた。残念ながら、指定校推薦の受験者減、例年より多い辞退者などにより入学定員を充足することはできなかった。	対処を 2/2 実施。検証を 2/2 を実施。達成 1/1 を実施。 【指標「計画表」D5-2:過剰・未充足に関する対応】 【指標①②】
	[2-3]　上記の分析に基づき、今後の改組に向けて、適切な募集人員を確保しうる新たな方策を創造する。	昨年度の実績を鑑み、各入試制度の定員配分については変更せず実施することとなった。入学定員確保に当たっては、一般・センター受験者は増加しており、指定校推薦の受験者増への対策が今後の課題である。	対処を 1/1 実施。検証を 1/1 を実施。達成 1/1 を実施。 【指標「計画表」D5-2:募集人員の適切性を検証】 【指標①②】
2020年度	年次計画内容		
	[2-1]　収容定員と在籍学生比率の適切性における課題を整理して、今後の改組に効果的に活用できるようにする。		
	[2-2]　入学定員を継続して確保する見通しをたて、充足のために効果的な取り組みに注力する。		
	[2-3]　上記の分析に基づき、今後の改組に向けて、適切な募集人員を確保しうる新たな方策を創造する。		

（８）心理学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　アドミッション・ポリシーを刊行物・ＨＰなどで公開する [1-2]　アクセシビリティ委員会、バリアフリー委員会と連携し、障害を持つ学生の受け入れ態勢を整備する。 [1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1,1-2 共通]入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] アドミッションポリシーについて、オープンキャンパスや学校訪問、進学説明会等の際に説明したりすることを継続する。	アドミッション・ポリシーに関してオープン・キャンパス等の機会に説明するよう務めた。	【指標：なし】
	[1-2] アクセシビリティ推進委員会、バリアフリー委員会、学生相談室と引き続き連携し、配慮事項を徹底させる。	アクセシビリティ推進委員会と担任が連携を強化し、配慮の必要な学生に対して、建設的対話を継続させた。	連携については実施済みであるが、2019 年度は更に、学生、保護者、担任、アクセシビリティ推進委員会（サポートセンター）担当者での入学前面談、合理的配慮提供のための面談が増えた。【指標：なし】
	[1-3] 困りごと調査等を引き続き実施し、経時的に検討を続ける。	困りごと調査用紙を配布し、必要なケースについては担任が対応するようシステ	実施の手順を明確にした。【指標：①調査用紙②2018 年度第 17 回教授会資料③2019 年度第

		ム化を試みている。また 2 年次にも同様の調査を行い、経時的に検討を加えていく。	14 回教授会資料】
	[1-4] 公認心理師等を積極的にめざす学生を受け入れ、育成する方法を引き続き検討する。	公認心理師国家試験では、基礎科目の出題割合が高く、学部教育において基礎科目の修得を促す必要がある。そのため、公認心理師をめざす学生に「心理学検定」の受験を促す方策を検討した。	【指標：なし】
2020 年度	年次計画内容		
	[1-1] アドミッションポリシーについて、オープンキャンパスや学校訪問、進学説明会等の際に説明したりすることを継続する。		
	[1-2] アクセシビリティ推進委員会、学生相談室と引き続き連携し、配慮事項を徹底させる。		
	[1-3] 困りごと調査等を引き続き実施し、経時的に検討を続ける。		
	[1-4] 公認心理師等を積極的にめざす学生を受け入れ、育成する方法を引き続き検討する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。	心理学部としての定員 95 名に対し、大幅に上回る入学者となり、比率は 1.23 となった。次年度は、適正な入学者数となるよう検討する必要がある。	【指標：なし】
	[2-2] 定員 95 名の厳格化に向けて、入試方法を検討する。学校教員向けの心理学講座や高校への教員向け出張講座において、本学における教育目的や方針を説明し、質の高い生徒の確保を目指す。	IR 等のデータを得て本学受験者の傾向を分析し、次年度入試による入学者数が適正なものとなるよう検討した。またひきこもりや不登校等をテーマとした学校教員向けの心理学講座は好評であり、本学への関心を高める一助となったと思われる。	昨年度から開始したスカラシップ入学制度によ 14 名、入試成績上位の成績優秀者枠でも 31 名を確保した。さらなる質の高い生徒の確保の工夫と、それに対応できるカリキュラムを工夫していく必要がある。 【指標なし】
2020 年度	年次計画内容		
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。		
	[2-2] 定員 95 名の厳格化に向けて、入試方法を検討する。学校教員向けの心理学講座や高校への教員向け出張講座において、本学における教育目的や方針を説明し、質の高い生徒の確保を目指す。		

（９）法学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1] 求める学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2] 学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのか検証する。 [1-3] 入試制度の区分に応じた学生の成長を把握し、入試制度の検討を行う。			[1-1] ①入試要項、履修要項での記載、ホームページでの公開実績 [1-2] ①入学年度別学位授与率･4 年間卒業率 ②進路決定状況 ③GPA 分布 ④資格等取得状況 ⑤法学検定試験ベーシックコースの合格状況 ⑥ボランティア活動への参加状況 [1-3] ①入学年度別学位授与率･4 年間卒業率 ②GPA 分布
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 求める学生像、入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準を、入試要項、履修要項、ホームページなどで明示する。	[1-1] 入試要項、履修要項ともに学部の教育目標や各種ポリシーを明記している。全学ホームページの中の法学部の該当箇所で各種ポリシーを公開し、高校生にわかりやすく説明している。	入試要項、履修要項を参照。またフェイスブックにおいても、積極的に学部の情報を公開している。
	[1-2] 学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのかを、単位取得状況、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、進路決定状況、GPA 分布などの指標を通じて検証する。	[1-2] 法学検定ベーシックに多数の合格者を出し、全国 5 位以内に入ったのが 3 度目になるなど、安定してきている。公務員試験の合格者に関しては、今年度は飛躍的増大した。4 年間卒業率も上昇しており、学生の成長を多角的に把握できる状況にある。	資格取得者表彰12名。法学検定ベーシック合格103名（団体受験して合格したのは99名であり全国第5位）、合格率54.5%。法学検定スタンダード合格11名、合格率52.3%。 公務員合格者数33名（のべ人数、うち国家公務員一般現役1名、労働基準監督官現役1名、北海道職員現役7名、北海道警察現役10名、道内市町村現役3名、北海道教員中学校現役1名）。 4年間卒業率80.4%。
	[1-3] 入試制度の区分に応じた学生の成長を、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、	[1-3] 入学者が少ないながら、公務員志望者や資格取得者、さらにはボランテ	2019 年度の卒業対象者卒業率 86.1%、4 年間での卒業率 80.4%、前者は前年よ

	GPA 分布を通じて把握し、入試制度の検証につなげる。なお入試制度と学生の成長との関係をより正確に把握するための仕組みづくりを検証し、場合によっては改善を行う。とりわけスカラー入試制度で入学してきた学生についてはトップアップの観点からサポートする態勢作りを行う。	ィア・地域貢献を目指す者など多様な学生が育まれている。入試制度とのさらなる連携を踏まえた、新しい仕組みづくりの検討を続けたい。	り 1.2%、後者は前年より 1.8%アップした。
2020 年度	年次計画内容		
	[1-1] 求める学生像、入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準を、入試要項、履修要項、ホームページなどで明示する。		
	[1-2] 受け入れた学生が受け入れ方針に合致する学生であるのかを、単位取得状況、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、進路決定状況、GPA 分布などの指標を通じて検証する。		
	[1-3] 入試制度の区分に応じた学生の成長を、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、GPA 分布を通じて把握し、入試制度の検証につなげる。なお入試制度と学生の成長との関係をより正確に把握するための仕組みづくりを検証し、場合によっては改善を行う。とりわけスカラー入試制度で入学してきた学生についてはトップアップの観点からサポートする態勢作りを行う。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ① 収容定員充足率
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 在籍学生比率は、当該年度の収容定員および実際の入学者によって変動するため、適切な定員管理ができているかを検証する。	[2-1] 2014 年度入学生数を底にして入学者数は改善傾向にある（2015 年度 101 名、2016 年度 112 名、2017 年度 110 名、2018 年度 123 名、2019 年度 102 名）。高校生数の減少を考えると健闘している。	2014 年度の充足率は 38%、2015 年度の充足率は 67%、2016 年度の充足率は 75%、2017 年度の充足率は 73%、2018 年度の充足率は 82%、2019 年度の充足率は 68%である。
	[2-2] 在籍学生数の過不足を検証・評価し、適切な定員数を検討する。	[2-2] これまでの学部独自の広報活動によって、公務員試験に強い「札幌学院大学法学部」というブランド力が、ある程度、評価されてきた。しかしながら公務員不人気や高校卒での公務員就職の傾向などによって、公務員志望の学生を頼りにしたポジショニング戦略だけでは、さらなる学生を獲得するのは難しい状況にある。そのため高校側に、教育の質をアピールできる模擬裁判等の出張講義を積極的に行うなどしてきた。2020 年度は定員充足できる見込みであるが、全国的な大学入試制度変更直前の年であることもあり、長期的な傾向を判断することは難しく、定員数の削減案については、今後の検討課題としたい。	2019 年度入学者は、前年度の入学者数より減少し、定員の 150 名に近づけることはできなかった。2020 年度入学者数は、3 月時点では 176 名を予想しており、入学定員の 1.17 倍となる見込みである。
2020 年度	年次計画内容		
	[2-1] 在籍学生比率は、当該年度の収容定員および実際の入学者によって変動するため、適切な定員管理ができているかを検証する。		
	[2-2] 在籍学生数の過不足を検証・評価し、適切な定員数を検討する。		

（１０）大学院法学研究科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1] もとめる学生像および入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2] 入学者選抜方法について、公平性・適切性等の観点から不断に検証する。			[1-1,] ①入学案内・ホームページでの公開 [1-2] ① 単位修得状況（2019 年度まで） ②GPA 分布（2019 年度まで） ③資格等取得状況（2019 年度まで） ④学位授与率（2019 年度まで） ⑤修了生進路状況（2019 年度まで） ⑥検証作業の実施状況の有無（2020 年度から）
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 学生の受け入れ方針を入学案内や公式サイト等に明示する。	[1-1] 学生の受け入れ方針を入学案内や公式サイト等に明示し、適切に対応した。	[1-1,] ①入学案内・ホームページでの公開：実施
	[1-2] 指標に基づき、適切な受け入れ体制が確立しているか、検証する。	[1-2] 適切な受け入れ体制に関する検証は行わなかった。	[1-2] ①単位修得状況：良好 ②GPA 分布：良好 ③資格等取得状況:税理士試験科目合格者有り ④学位授与率：90%(10/11) ⑤修了生進路状況：修了生進路状況：全員が税理士志望であり、税理士事務所勤務中であるか勤務を予定している。 ⑥検証作業の実施状況：未達成
2020 年度	年次計画内容		
	[1-1] 学生の受け入れ方針を入学案内や公式サイト等に明示する。		
	[1-2] 指標に基づき、適切な受け入れ体制が確立しているか、検証する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1] データ（入学定員充足率や収容定員充足率等）に基づき総括を行い、適切な範囲に収めるための定員管理を強化する。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率 ③総括の実施状況の有無（2020 年度加筆修正）
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する総括を行い、次年度に向けた対応を検討する。	[2-1] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関しては、教育の質の保証の問題もあり、会議や入試業務を通じて検討を行なったが、総括するまでには至らなかった。	[2-1,2-2 共通] ①次年度入学定員充足率：40%（6/15） ②次年度収容定員充足率：53%（16/30） ③総括の実施状況：未達成
2020 年度	年次計画内容		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する総括を行い、次年度に向けた対応を検討する。		

（１１）大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1] 一般入試ならびに社会人入試(一期、二期)、学内特別選抜入試の制度と内容について運営会議における検討を継続する。 [1-2] 受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。			[1-1,1-2 に共通] ①受験者数、合格者数リスト
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 入試ワーキンググループを立ち上げ、入試の方法について、2022 年度入試に向けた大きな改定や、それまでに必要な小さな改定について議論する。	計画に沿って遂行した。 学内特別選抜・一期・二期の各入試状況は研究科委員会で報告され、研究科運営委員会設置プロジェクトにおいて、制度・方法についての検討を継続した。結果、学部新カリキュラムに対応できる入試制度にソフトランディングできるよう、具体的な計画を立てることができた。	① 達成
	[1-2] 受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。	計画に沿って遂行した。	① 達成
2020 年度	年次計画内容		
	[1-1] 入試ワーキンググループでは、引き続き入試の方法について、2022 年度入試に向けた大きな改定や、それまでに必要な小さな改定について議論する。		
	[1-2] 受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1] 入学定員に対して超過・不足に至らないように配慮する。 [2-2] 社会人の入学を促進するために必要な授業料減額について検討する。			[2-1] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率 [2-2] ①他研究科との授業料の対比
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 入試の状況と、超過･不足の状況を把握する。	計画に沿って遂行した。 各入試実施後に研究科委員会において状況報告がなされた。なお 2019 年度最終合格者は 4 名とこれまでで最少となったが、一期･二期入試とも、筆記試験、二次の面接試験を通じて研究科教員全員の評価に基づく適正な判定結果であった。尚、定員割れが続いているが、学部新カリキュラム（公認心理師対応）一期生が入学する 2022 年度（2021 年度に行われる入試）には大幅な受験者増が見込まれ、質的にもレベルが高くなると予測できることから、入試受け入れ方針は軟化の方向に変更しないこととした。	① 実施 ② 実施
	[2-1] 授業料の大幅減額を達成した。新たに当該年度から長期履修制度も開始したため、社会人を含め広く啓発していく。	ホームページや各種案内で広く啓発した。	① 実施
2020 年度	年次計画内容		
	[2-1] 入試の状況と、超過･不足の状況を把握する。		
	[2-1] 他大学の情報を参考にし、本研究科ならではの特徴や長期履修制度を社会人を含め広く啓発していく。		

（１２）大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①院生アンケート ②資格等取得状況
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 入試案内パンフレット、大学院の説明会等で求める大学院生像、習得しておくべき知識、研究できる内容などを明示するとともに、入学志願者に対して事前に書籍などを紹介する。	入試案内パンフレットに教育目標、アドミッション・ポリシーなどを記載した。また入学志願者に対して事前に読む書籍のリストも作成した。	
	[1-2] 修士論文の内容の検証、院生アンケートなどで受け入れた大学院生の成長の度合いを検証する。	修士論文等において院生がそれぞれのテーマを持って論文に取り組み、成長の跡が見られた。	①院生へのアンケートを行った。 ②資格取得者はいなかった。
	[1-3] 「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」に沿って大学院生の受け入れを行う。	「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」に沿って大学院生を受け入れるが、実際に障がいを抱えた院生は在籍していない。	
	[1-4] 海外留学生の受入れを促進するための検討を開始する。	東京で開催される留学生向けの進学説明会に、来年度から参加することが決定した。 秋入学の可能性について検討し、それを実現するための方策について事務と協議中である。	
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 入試案内パンフレット、大学院の説明会等で求める大学院生像、習得しておくべき知識、研究できる内容などを明示するとともに、入学志願者に対して事前に書籍などを紹介する。		
	[1-2] 修士論文の内容の検証、院生アンケートなどで受け入れた大学院生の成長の度合いを検証する。		
	[1-3] 「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」に沿って大学院生の受け入れを行う。		
	[1-4] 海外留学生の受入れを促進するための検討を行う。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員の見直しやカリキュラムの見直しの検討、広報活動を通じて定員に対する在籍学生数の未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] これまでの入学者数の動向を検証し、大学院再編時の収容定員を検討する。	入学者予定者は 2 名であり依然として低水準であるが、来年度からの留学生向けの活動およびターゲティング広告の実施による効果を検証した後に収容定員の検討を行いたい。	①今年度の入学定員充足率は 10% ②今年度の収容定員充足率は 17.5%
	[2-2] 大学ホームページの利用、入試案内用パンフレットの修正、パンフレットの配布先の拡大を通じて大学院の志願者数の増加に努める。このほか ・OB・OG、同窓会の活用 ・札幌学院大学コミュニティ・カレッジ等での広報を行う。 ・地方自治体、企業、JC 等各種団体への PR ・税理士会等へ、法学研究科と合わせて PR を行う。 ・ターゲティング広告の可能性について　検討する。	これまでのホームページとパンフレットによる広告活動に加えて、東京での留学生向け説明会への参加、および、ターゲティング広告の実施を決定した。	
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] これまでの入学者数の動向を検証し、大学院再編時の収容定員を検討する。		
	[2-2] 大学ホームページの利用、入試案内用パンフレットの修正、パンフレットの配布先の拡大を通じて大学院の志願者数の増加に努める。このほか ・OB・OG、同窓会の活用 ・札幌学院大学コミュニティ・カレッジ等での広報を行う。 ・地方自治体、企業、JC 等各種団体への PR ・税理士会等へ、法学研究科と合わせて PR を行う。 ・ターゲティング広告を活用して PR を行う。		